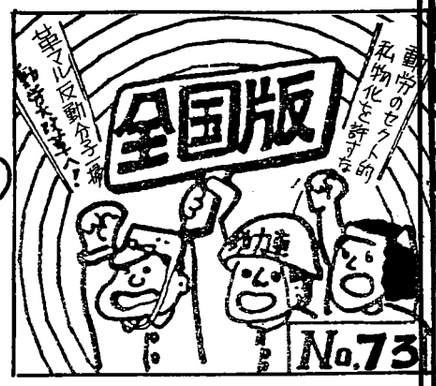
日刊 動労千葉
80.12.14
No. 全国版 73
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一-八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四三（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

8・3をかってたストライキで闘う



全国の動労組合員のみなさん！　われわれは、十一月二十六日～二十八日、動労千葉第四回定期大会を開催し、「八一年三月ジェット燃料貨車輸送延長をかってない強固なストライキ体制をもって阻止する」方針を満場一致決定しました。われわれの八一・三闘争方針が、現下の情勢の中で、政府・支配者階級の反動攻勢を唯一突破しうるものであるがゆえに、社会党・総評も支援決議をあげて取組みを開始しました。これは動労千葉結成以来、心血をそそぎ、孤立を恐れず、権力・当局・「本部」革マル反動分子の敵対・弾圧を粉砕し闘ってきた「労農連帯・三里塚ジェット闘争」の正義性が満天下に明らかになった、なによりもの証左であると考えます。全国の組合員のみなさん！　われわれは、一九七八年以来の闘いの成果を発展させる「八一・三闘争を闘う五つの視点」を掲げ闘い抜きます。

八一・三闘争を闘う視点の第一は、三里塚を絶対に勝利させなければならないという点である。

今日鈴木反動内閣は、体制的危機の延命策を、八一―八三年過程の軍事大国化・憲法改悪攻撃に一切をかけた極めて反動的な攻撃を展開している。この攻撃の基軸的突破口として、日本階級闘争の天王山＝労働者人民の共闘の砦としてある三里塚闘争を破壊せんがために、二期工事攻撃を強めている。従って今や八一―八三年政治過程を決する最大の闘いとして三里塚が位置しているのであり、いいかえれば、この闘いの勝利をもって今日の階級関係の逆転がかちとられるからである。

第二に八〇年代労働運動の戦闘的再生をかちとる闘いである。

今日の反動攻勢の激化するなかにあって、これに対決し、闘いが必要とされている時に、既成労働運動は屈服し、権力・資本の側に身をすりよせる否定すべき現状にある。一方職場で闘う多くの労働者は、この現状に不満をもち新たな流動化と活性化を開始している。

労働運動の戦闘的再生の道は、三里塚を基軸にすえた労働運動の実践こそ唯一活路をきりひらくのである。それは八一・三闘争の爆発によって突破口は築かれるのである。

第三に、動労「本部」革マル反動分子を一掃し、動労大改革を実現する闘いである。

「反対同盟と一線を画する」方針をもって三里塚に一貫として敵対する「本部」革マル反動分子は、動労千葉・反対同盟をはじめとするあらゆる闘う人民の敵である。三里塚敵対・水本謀略運動・貨物安定宣言をもって反動の側に転落した「本部」革マル反動分子は、今日に至っては、国鉄三五万人体制の水先案内人になり下り、その代償として動労千葉破壊を権力・当局に求めるにまで堕落している。八一・三闘争の爆発は、「本部」革マル反動分子を動労から一掃し、動労大改革をより一層前進させるのである。

第四に、軍事大国化―改憲攻撃を打ち破る政治闘争の復権をかけた闘いである。

軍事大国化―改憲攻撃を押し進める鈴木反動内閣の労働運動に対する攻撃のねらいは、既成労働運動指導部の屈服をより助長し、右翼的労働戦線統一を促進し、戦後労働運動を最後的に解体し、産業報国会化を完成させんとしている。この敵の狙いを粉砕する道は政治課題を前面にかかげて闘い抜き、階級闘争の力関係を大きくかえることである。砂川・安保・日韓・ベトナム反戦・三里塚闘争に続く政治闘争の歴史が、その時々の労働運動の高揚を作り出してきたように、今こそ政治闘争の復権を八一・三闘争をうち抜くなかからかちとらなければならない。

第五に、国鉄三五万人体制粉砕闘争の突破口を築く闘いである。

国労中央が「スト損賠」攻撃の重圧にあえぎ、三五万人体制攻撃に屈服し、動労「本部」革マル反動分子は、三五万人体制の先兵と化しているなかにあって、八一・三闘争の高揚は、国鉄労働者を揺り動かし、三五万人体制粉砕の勝利の展望をきりひらくことは必至である。

全国の動労組合員のみなさん！

「本部」革マル反動分子がいう「燃料阻止闘争」とは　第三七回全国大会方針（「反対同盟と一線を画する」）にもとづく「闘い」である以上「燃料阻止」を語って、われわれの八一・三闘争を破壊する為にのみ組合員をひきまわすという「方針」であるのです。われわれは、この闘争破壊を許さず八一・三に総決起します。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！